

Smile Woman!
インタビュー⑤0!
 この人の仕事のカタチ
どこか輝いて見える「仕事」をしているあの人のズームアップ。

伝統文化の書道を 世界に発信したい



Mariko Yamamoto

「書」の歴史は古くは平安時代にさかのぼる。当時の作品が現在も書の基礎とされている。その歴史を思いをはせながらも、書と日本人との間に距離が出てきている現状も否めない。そんな状況を危惧し、書道だけでなく日本文化と正面から向き合おうとしているのが書道家の山本満理子さん。「古きを残すための変化」に力を注ぐ。

③歳のとき書道と出会う

山本さんと書道の出合いは3歳のとき。「母親が書道教室を開いていたため、物心ついた時には筆を握っていましたね」と話す。小学校を卒業するまでには十段を取得したが、当時の「書道」は字を習う「習字」に過ぎなかったと振り返る。その後筆を置いた時期もあったが、進学先の京都で様々な日本文化に触れる中で、新たな気持ちで書に取り組み始めた。「書道」は日本の誇るべき伝統文化であり、後世に残すべきとの想いから教育についても学び現在は書道教室（岡山市中区倉越）での指導も行う。

④書と音楽融合のイベント

書道の裾野を広げる活動の一環として、昨年からは今年にかけて「書」と「音楽」を合わせたイベントを開催した。DJや琴の生演奏をバックに書活動を披露する斬新なパフォーマンス。幅広い世代が集まり、予想以上の反響だったという。「書にリズ

書道家

山本満理子さん



ム感を乗せることで全く新しい見せ方ができる。それによって書道が少しでも楽しく身近なものになれば」と熱く語る。

さらに今年は台湾での東北復興イベントに参加し書道パフォーマンスを行う予定。「書道のみでなく日本文化を世界に発信していきたい」と山本さんの夢実現への第一歩が踏み出される。

⑤型にはまらない生き方へ

プライベートでは歌舞伎や狂言などの日本文化に触れる時間も大切にしている。そんな傍ら大学で専攻していた司法の勉強にも取り組んでいるという。「今後、法に携わっていくかは未定です。ただ何か興味あるものには積極的に触れ、学び、自分のものにしていく姿勢が山本さんの魅力。その人柄に魅せられて集まる人々によって輪ができ、新しい創造が始まるのだろう。「書道は自分の道、一生追い続ける」と思っています」と言葉に書道、日本文化の明るい未来を託したい。